

野田処理場施設見学会

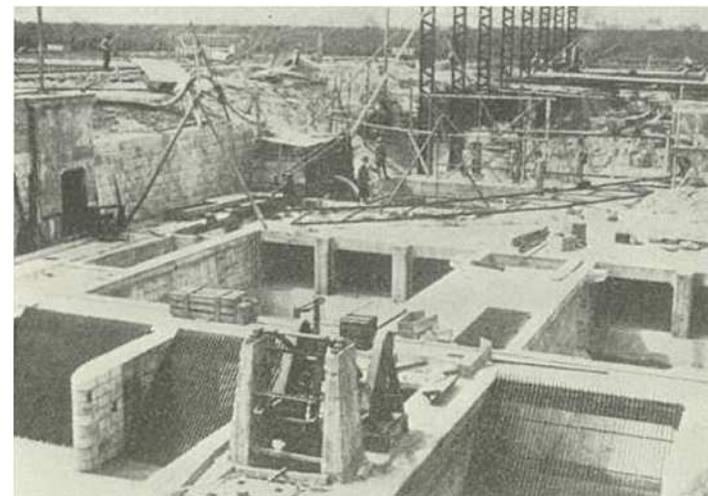
野田処理場のあらまし

◇創設期

- ・昭和初期の本市は伝染病が流行り衛生環境は悪く、下水道の整備が必要であった。
- ・昭和6年下水道整備に着手し、世界恐慌の煽りを受けた失業者の救済対策を兼ねた取り組み。
- ・昭和10年8月に当時としては東洋一と言われた野田処理場が全国で6番目の下水処理場として運転を開始した。



野田処理場の全景（供用開始当時）



沈砂池基礎およびポンプ井工事状況

◇拡張事業

- ・1次拡張事業（昭和31年から昭和39年）では、市街地の拡大と人口の増加に対応するため、最終沈殿池の増築等を行った。
- ・2次、3次拡張事業（昭和39年から昭和44年、昭和43年から昭和52年）では、処理区域の拡大に合わせて昭和47年に野田処理場の増築を行った。
- ・第5次拡張事業（平成3年から平成9年）では、平成8年に中島処理場へ汚泥を送る送泥設備を整備し、汚泥処理機能を廃止した。

◇野田処理場の休止

- ・野田処理場の老朽化や巨大地震への問題を解決するため処理機能を中島処理場へ移すことに至り、野田処理場再整備事業として平成22年から令和5年に実施。この事業により「野田中島污水幹線」、「中島処理場合流ポンプ棟」を建設した。令和5年度より野田処理区の污水を全て中島処理場にて処理を開始し、野田処理場は同年度に廃止となった。

◇野田処理場の概要【R4.3.31】

- 所在地：豊橋市三ツ相町10番地
- 敷地面積：16,745㎡
- 排除方式：合流式（一部分流式）
- 運転開始：昭和10年8月16日
- 処理区域面積：530ha
- 処理区域人口：32,668人
- 処理能力：33,000m³/日（日最大）
- 付帯施設：併設ポンプ場
（雨水ポンプ4台、汚水ポンプ4台）

